

第2回 南大沢スマートシティ共創ラボ

【実施報告】

- ・日時：2025年2月6日（木）
17:30～19:30
- ・場所：パオレビル 7階 会議室
- ・主催：南大沢スマートシティ協議会

「南大沢の魅力を手感できる
アプリの検討に向けて」

南大沢スマートシティ共創ラボ
(令和6年度第2回)

2025年
2月6日(木) 17:30～

南大沢の魅力を手感できるアプリを検討するため、
「暮らす人」「学ぶ人」「訪れる人」の立場から、
必要な地域情報やサービスについて話し合います

お申込はこちらから 

於：南大沢駅前パオレビル7階 (予定)

開催結果（サマリ）

地元情報の発信者を含む社会人や学生が集い、「南大沢の魅力を感じることができるアプリコンテンツ」についてさまざまなアイデアを検討

開催概要

主旨	プレリビングラボの議論を踏まえて事務局で整理した アプリ骨子 を提示するとともに、主に 地元のユーザー目線 で、 必要な情報 や 発信したい情報 等を掘り起こす
日時・会場	日時： 2月6日（木） 17:30-19:30 会場：パオレ7F会議室 ※17:00 開場 19:30-20:00 参加者交流
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー（暮らす人・学ぶ人・訪れる人） ・地元情報の発信者
申込者・参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ・申込者：23名 ・参加者：24名（当日参加1名） ・オブザーバー：3名（事務局を除く）
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・南大沢スマートシティ協議会の概要 ・アプリの検討案について ・ワークショップのルール・進め方 ・グループディスカッション ・発表・意見交換 ・講評

コンテンツに関するアイデア等のサマリ

グループディスカッション	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーがマップに投稿できる「ユーザーおススメ情報マップ」機能、地元スポット、マニアックなポイント ・ポイントや限定ページなど差別化によるインセンティブ ・「人と人」、「人と場所」、「人とお金」を結ぶコンテンツ
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗等、くらし、自然・観光スポット、イベント情報など ・時期・場所・ユーザーにとってうれしい情報をリコメンド ・地元のディープな情報を投稿・取得できる仕組み ・地域情報データに誰でもアクセスし、コンテンツ作成可能
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポット紹介・施設案内系」、「マップ系」、「地元店舗情報系」、「地域コミュニティ系」の4分類のコンテンツを作成 ・地元住民等が自由に投稿しながら情報を蓄積し、作り上げていくローカルマップやショート動画 ・SNSとの連携による自分の興味ある地元情報の表示
	D	<ul style="list-style-type: none"> ・「『街を歩く』道情報」、「暮らしをサポートし豊かにするコンテンツ」、「『街を知る、楽しむ』スポットや店舗情報」 ・これらを組み合わせることで地域の深い特徴を知る情報 ・XRなどの活用により充実したスマートなコンテンツ
意見交換		<ul style="list-style-type: none"> ・南大沢の街紹介も兼ねて記事やコラムとして投稿、アカウントごとにアバターを作成して交流できる ・チャレンジによって貯めたポイントを寄付できる仕組み ・地域通貨、LINE公式アカウント、まちのフリーWi-Fiなどとの連携 ・利便性のためにユーザーが慣れている操作方法が必要。また開発・運営コスト面ではウェブアプリが現実的

当日の様子

全体説明



グループディスカッション



発表・意見交換



講評



意見交換

主な意見（抜粋）

主な コンテンツ・ 機能

- サークルでの活動や報告資料を南大沢の街紹介も兼ねて記事やコラムとして投稿出来たら面白いと思った
- チャレンジによって貯めたポイントを好きなところに寄付できる仕組み・機能があるとよい
- 投稿機能のあるサービスでアカウントごとにアバターを作成して交流できたりなど、ニッチな話題でもつながりが出来て盛り上がっていく仕組みがあると良いと思った

UI・UX

- 新しい操作に慣れるのは難しく時間がかかる。今あるアプリで皆さんが慣れている操作の方法をそのまま使うことが、この地域のアプリでは有効だと思う

運営方法

<外部サービスとの連携>

- 地域通貨との連携も期待したい
- LINEの公式アカウントに機能を連携することも考えられる
- まちのフリーWi-Fiに接続する際に地域情報が表示され続けるなど、ネットワークとの連携での発信の仕組みも考えられるのではないかと

<アプリの形式>

- ネイティブアプリの方が使い勝手は良いと思うが、インストールのハードルはやはり高く、開発コストも高いので、その点ではウェブアプリという形態の方がいいのかなとも考えた

全体

- 使うことで教養が身につくなど、教育的な面でも支えになるアプリになればとてもいいと思う

オブザーバーの先生方からいただいたコメント（抜粋）

主な コンテンツ・ 機能

- ニッチな情報が多数積み重なることで、**属性の異なる人同士の交流**や輪の広がりが促進されると思う
- **人を分けるのではなく境を取り払うようなつながり**が目指せればよいと思う
- 人だけではなくて、大学側の調査における被験者の募集や、空き部屋の有効活用のマッチングなど、**「人と施設」の観点でも繋がれる仕組み**があってもよい
- 一つ一つの細かい**コンテンツをマップ情報とうまく結び付けていく**という観点も考えられる。マップと連携して人々がそれぞれアップロードしていき、**データ蓄積されていく仕組み**があって、**必要な人がそのデータを活用できる形**がうまくできていくと良いと思う

UI・UX

- **地域の人みんなで投稿できる機能**があって、気象や道路状況の超ローカル版としていくのも考えられる

運営方法

- 動画系のサービスで言えば、例えば技術を活用して、**アップされた動画が自動で編集されて発信される仕組み**なども今後は考えられる
- **「技術を活用すること」、「当事者が面白いこと」、「地元に対して熱い思いがあること」、の3つをうまく組み合わせていく**ことで、コンテンツが充実していくので、その仕組みをどうしていくかがポイントになる
- ほしい情報をどのように取り出すかについては、**AIの活用**が一つの大きなキーとなる

全体

- 大変熱い議論だったと思う。付箋に書かれた一つ一つのアイデアが大変貴重なものだと思う